

熊谷蓮生一代記

終七

L289
7



慶應二年

宮十一月来之

担任所 岩川村

稻倉侍六



總管蓮生一代記卷之七

目錄

蓮生武忍ノ一字蓮生は然上人所傳也事

并ニ系傳蓮生然寺靈湯ノ事

蓮生鳥居ノ事

并ニ上品蓮生發願靈臺ノ事

蓮生上人所感者ノ事

并ニ上人蓮生曼陀羅ノ事

6099 9

龍谷玄家又入道と古脚へ遊ぶ事

并ニ法然上人玄家が孝人と感ふ事

蓮生村忌の市ふるれと云ふ事

并ニ將玄家及一族に遊まむ事

蓮生再びふるれと云ふ事

并ニ上品生主奔遊し事

龍谷蓮生一代記卷之七

蓮生武州へ一宮建之上人御宿也事

并ニ系極法然寺靈場と事

文集卷第十五虚空藏菩薩名曰一切の菩薩所淨乃端

終以氣生と利をばはる如來の神力也と僅小人界の經

こうけて。禱に達がこれ佛の教は傳り。腹眼の須龜波の

およまよまよ。とんが蓮生母れ一周をも終りたれ。よと

とよまよ。とんが蓮生母れ一周をも終りたれ。よと

とよまよ。とんが蓮生母れ一周をも終りたれ。よと

とよまよ。とんが蓮生母れ一周をも終りたれ。よと

此蓮生法師と最初とんが蓮生母れ一周をも終りたれ。よと

の河津陀蓮生佛とまひたる。それより蓮生武加ふ一寺と建之して
 徳谷と号し。法然上人の真影を奉るとて。一仕ありて。年々徳谷
 なる。ちよにわすれ去。親友中に出す。そのまじく。都に我有縁の地方と
 信ひて。べとのまじ草中。大に寝た。受て。後。即。時。不。破。高。野。を。守
 ちり。釈を日小。徳と。礼。法。小。や。う。と。人。よ。偈。一。甘。り。ま。り。の。内。と。其。不
 破。起。と。い。ふ。或。日。我。能。せ。れ。地。也。一。く。佛。小。倍。東。洞。後。と。い。ふ。一。く。不
 願。を。も。志。親。友。ち。人。聖。石。の。ま。じ。ふ。か。ま。白。あ。む。さ。す。が。此。大。力。剛。勇。の
 蓮生方。し。も。一。足。を。む。じ。と。徳。の。根。ハ。長。中。小。若。あ。ひ。ら。る。有。縁。の。地
 方。人。を。上。人。よ。何。ひ。ま。り。た。ら。ば。上。人。の。ま。ま。く。其。所。ま。道。場。と。建。て。念
 佛。之。味。を。切。と。し。て。仰。せ。ら。る。と。蓮。生。也。と。い。ふ。一。寺。と。建。之。て
 かの真影を安置しせり。

今。徳。谷。山。法。然。寺。此。寺。を。名。せ。り。此。刹。は。徳。谷。武。加。の。即。人。と。す。り。佛。乃。相
 好。と。写。て。恒。小。御。せ。ん。と。移。す。佛。の。言。者。安。所。後。の。所。是。と。て。佛。の。自。作。と。建。之
 と。佛。の。深。志。と。我。び。自。作。の。本。像。を。附。無。一。あ。ぶ。あ。ち。此。刹。是。乃。又。聖
 蹟。の。ま。ま。と。す。り。せ。り。あ。ち。あり。そ。亦。付。室。あ。ま。り。あり。旧。地。佛。小。倍。東。洞。後。西
 今。元。は。徳。寺。所。と。て。後。世。系。極。後。小。倍。の。南。ふ。ら。う。と。

亦。蓮。生。武。加。則。徳。谷。ま。在。時。志。佛。門。の。上。れ。も。其。の。徳。を
 書。つ。て。後。都。の。法。然。と。人。へ。の。り。り。く。れ。其。神。海。幸。よ。日

依。ん。で。ま。り。り。は。ぬ。を。後。ハ。そ。ん。来。ち。く。な。り。い。つ。ふ。破。し。も
 依。つ。ま。ひ。も。の。る。依。て。念。佛。の。文。書。あ。ら。く。寺。徳。と。あ。せ。

第一念佛の行ハ彼佛乃奉親少てハ持戒漏經誦咒
 理親也此乃ハ彼佛の本教ふあねけいひしとて之ハ極

樂を致しん人ハ先かきれば其教意仏の妙とつめて
 上の幸をてい義行しむとて佛お招加ひんとてひひ
 びさも仕ひ。又奉教の意佛計もも是也。其年和
 ハそ是こと一定とすゆ。孝養乃の妙も其教ふありて
 堪ん小たひて勤をせり。又又網の門字れるも湯杖
 のすも佛の教をいぬ勤をてい免てし角もそをひく。又
 近接の曼陀羅ハ大切なりきり。其も次のゆきい唯
 念仏と三万五方又六方一はよりしんて交遊せしむ
 ハ其善根のハ味あはるゆきい一六万返とて一はよりせ
 む。其小たひつとせむをひりしん。一知不しりやふ三万五万
 の意佛と勤をせむ。サハ戒り戒り。け生ハそむい

其のまゝたすか。但し此中に孝養ハ佛の教をい
 ども老母と年八十九業とてれり。まはれん。相とて
 年をいハ生待つをいべ。只稻を彩ふたり。其也。孝
 養も意佛をいぬにいつとちた。れ目ゆく。極楽浄土乃
 ぼけをいすちた。るをい

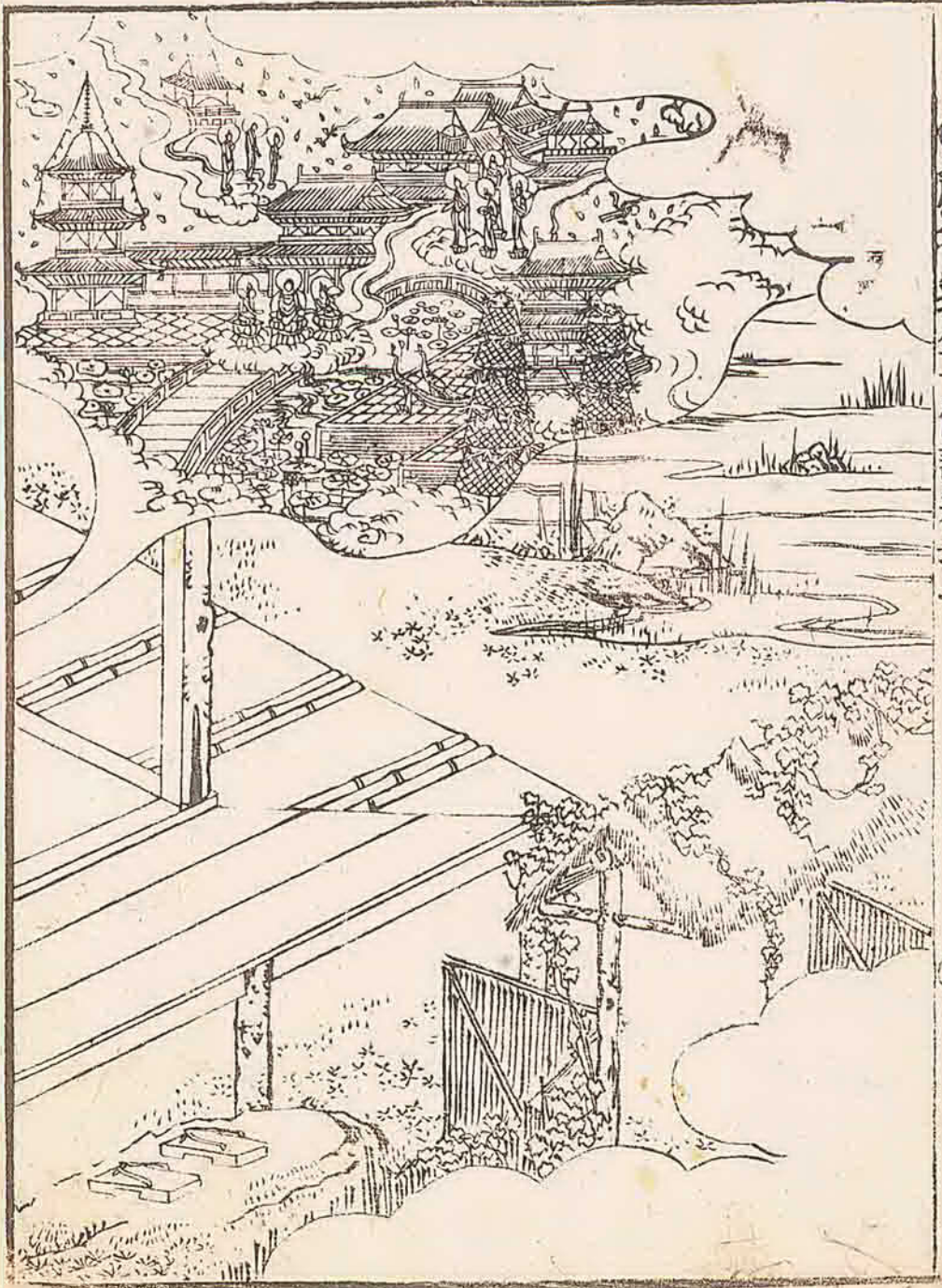
五月二日

源堂

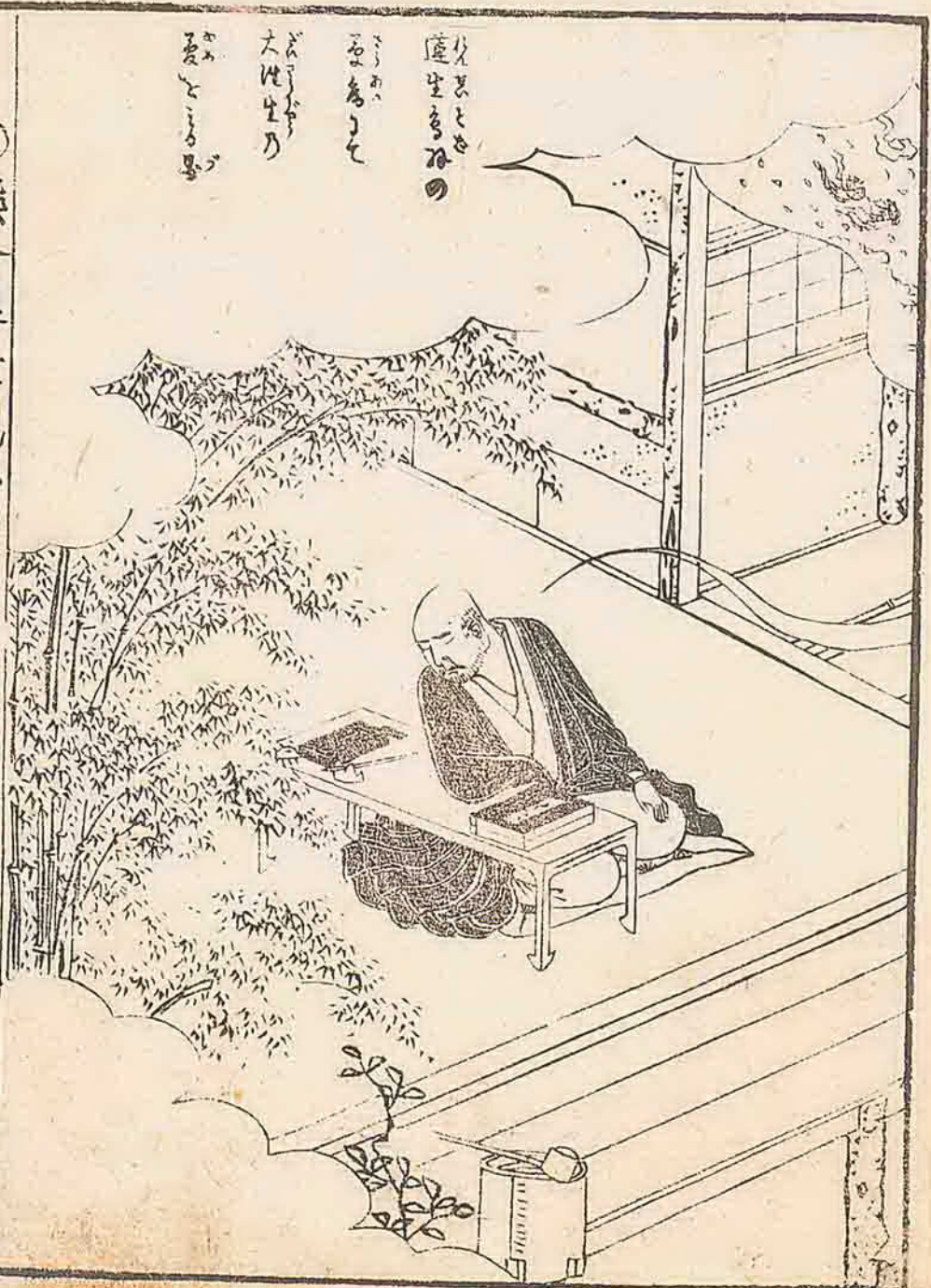
武蔵國越前入道殿

返事

寺に遊べし。其は。却ては。然と人の所消息の中。越前へ
 ハ多くと美報をり。御宗もあり。其故ハ蓮生は師の中。其
 あで何と行をり。勤もす。れ。ゆ。か。り。本教の中。其



蓮生を
大生乃
愛と
石を
大生乃
愛と



選擇集より本をよむ。考のを研しあふと謂はれり。蓮生法師のよれば五万七千の念佛の外ありて持戒誦經
誦之理觀念れ其なる妙ひを任付ししても勤りぬあり。
又ゆゑやふ教をて帰て逆をて其教も教するを
とてこれ消息のありとてんを

蓮生鳥羽子草庵をむす事

并ニ上品生發預豐多事

唯識論曰。未得真覺恒處夢中佛說是為生死長夜之
滅。人生百年たり。未得真覺恒處夢中佛說是為生死長夜之
起。起動靜の事。是皆无明習氣の所為なり。死と生
と月をまがくするも。命終乃時なり。これを悉く憂あり。

ましく長と短との互に矣。唯此世の憂を憂ふ
あはれ若くなく。みか一度小なる世の中なり。今も憂ふ平生
業成の法門を尋ね。佛の行者の生。唯か憂ふを
て。其憂は憂ふこと。即放光明の其憂ふ人。まことに
吾月乃憂ふと傳りて信ずく。只此一事なり。されば
蓮生法師の念佛は生れ信心交定して後。ひよよ上品上
生れ生をのぞき。若く生死成終をす。あはれ憂ふあり。其
若く我憂上の上生れ生をて遂まらば。下八品は遠らしま
らせど。つゝがこれ預と發して其教の旨をのぞく。偈と
元久元年五月十三日。鳥羽子草庵をむす事。上の上生れ喜迎の

あもご佛の申すをて蓮生預を殺して申こい。
 極歩よせられたらん身れたのしれあご下下生ちりも。
 限りや。あれども天台の御釋お下下八品不可來生と作
 られり。用づく一切の有縁の生一入ものことさす事御
 せん。縁の生をもちひと懸て吊んがあふ直生上上とせよ
 せん。さあ履する下八品もさす事御釋を懸て清よさご曰
 慈心信敬す下下の上生と懸ひさる。のよりや事代乃派
 上上と生する者一人も那と懸て事代乃信すやあをさす
 事代乃と懸て事代乃上上と生する者有さす事代乃も
 万も高かる蓮生いりて上上と生するべきとさる。下八品
 りんせれすと懸て事代乃あもご佛義迎むべしとて此の釈やあ

たすらんらんぞ次小孫院の慈悲うけあらんぞ次小孫院
 の預成徳の文破是あらんぞ次小孫院の觀無量壽經
 の十惡の一念生五逆の十念生事阿孫院經の若ハ
 一日若ハ七日念佛生事。さご方恒沙の諸佛の徳滅又
 善守和尙の下至十聲一聲寫定得生此釈又何よりも
 觀經の上上と生の二は具足の生事とを善守乃釈ふ
 具足二は必得往生也若サ一は即不得生。まご專修
 の若ハ千ハ千ちり釋さる。若サ佛の釈とひ
 佛の言とひ善守の釋とひ。若サ蓮生と近むかへは善
 破も若サ安結乃罪と得むかへん。若サ大聖の令
 言宣うくべし。又光明遍照十方世界の文。入此界

一人云、仏名の文、凡人言ふも、さうじ。孫は、おの文、とりて、疑ふ事
 有り、と云ふ。一切の有縁の事、即ち歸て、迎へ、て、預と教へて、
 上座、上生、方、す、の、迎へ、れ、奉、せ、と、い、ふ。望、み、教、を、教、へ、る、と、い、ふ。佛
 事、あ、り、人、起、五、逆、の、者、計、は、あ、じ。孫、は、い、う、あ、り、た、迎、へ、あ、ら、わ、る、の、ま、り、し
 こと、疑、は、ぬ、心、ハ、こ、ん、を、足、さ、る、上、座、上、生、方、す、の、ま、り、し、
 教、へ、る。其、悟、を、用、し、る。吾、等、又、天、を、け、し、と、い、ふ。若、い、上、座、上、生、
 方、す。又、氣、生、れ、養、を、め、く、る、を、ほ、又、生、忍、と、悟、る。又、極、歩、行、教、へ
 せ、し、ゆ、る、と、の、こ、ま、り。下、八、座、の、生、生、我、持、て、あ、る、教、を、う、け、ぬ
 土、よ、ま、終、て、即、歸、來、る、故、に、い、ふ、ま、り。ま、を、乞、我、教、を、持、て、或
 ハ、信、ト、或、ハ、信、を、と、ん、若、か、つ、く、を、信、と、傍、と、を、同、ま、り、て、ま、
 ず、と、い、ふ。小、座、上、生、方、す、の、ま、り、し、と、い、ふ。

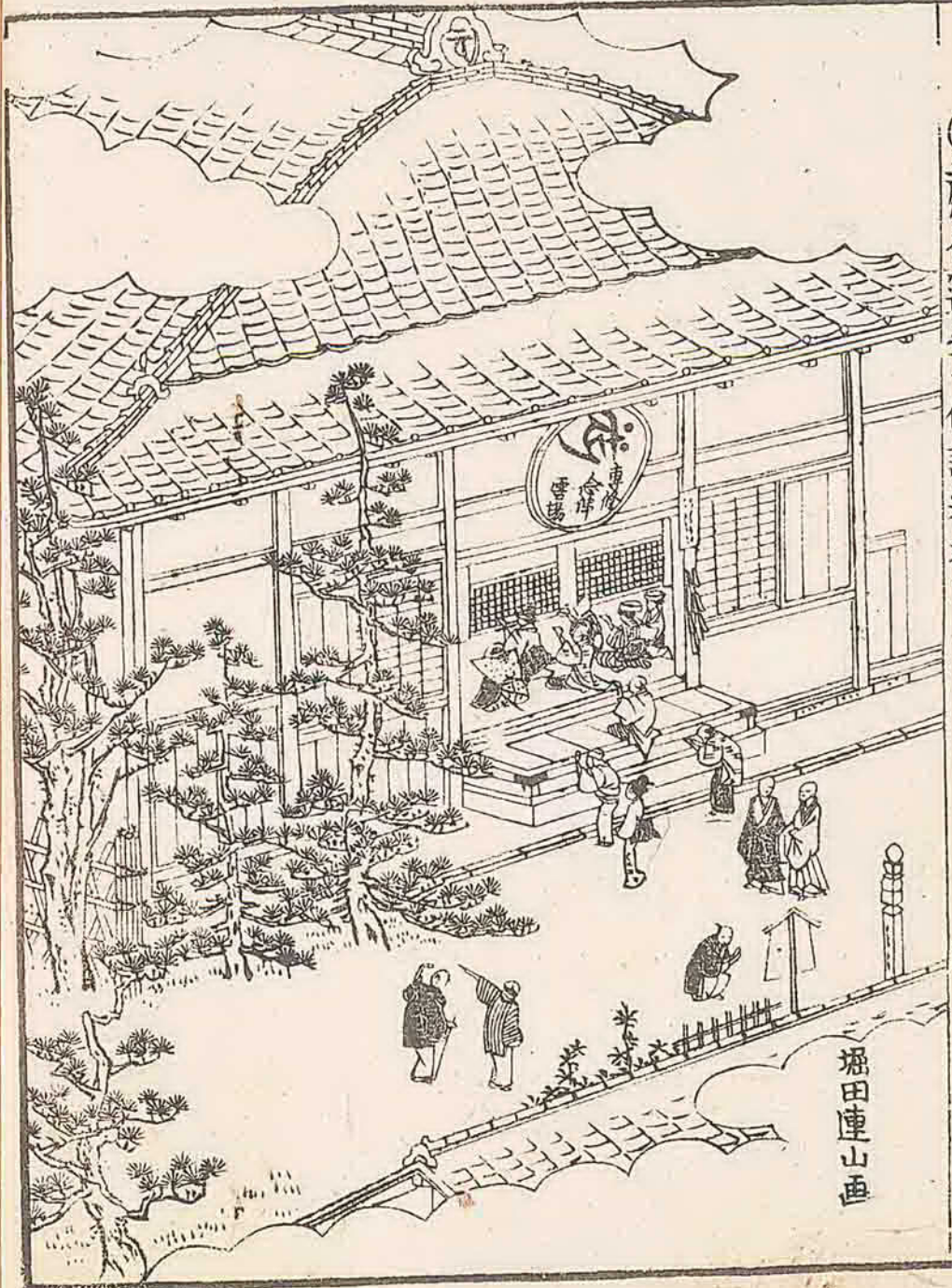
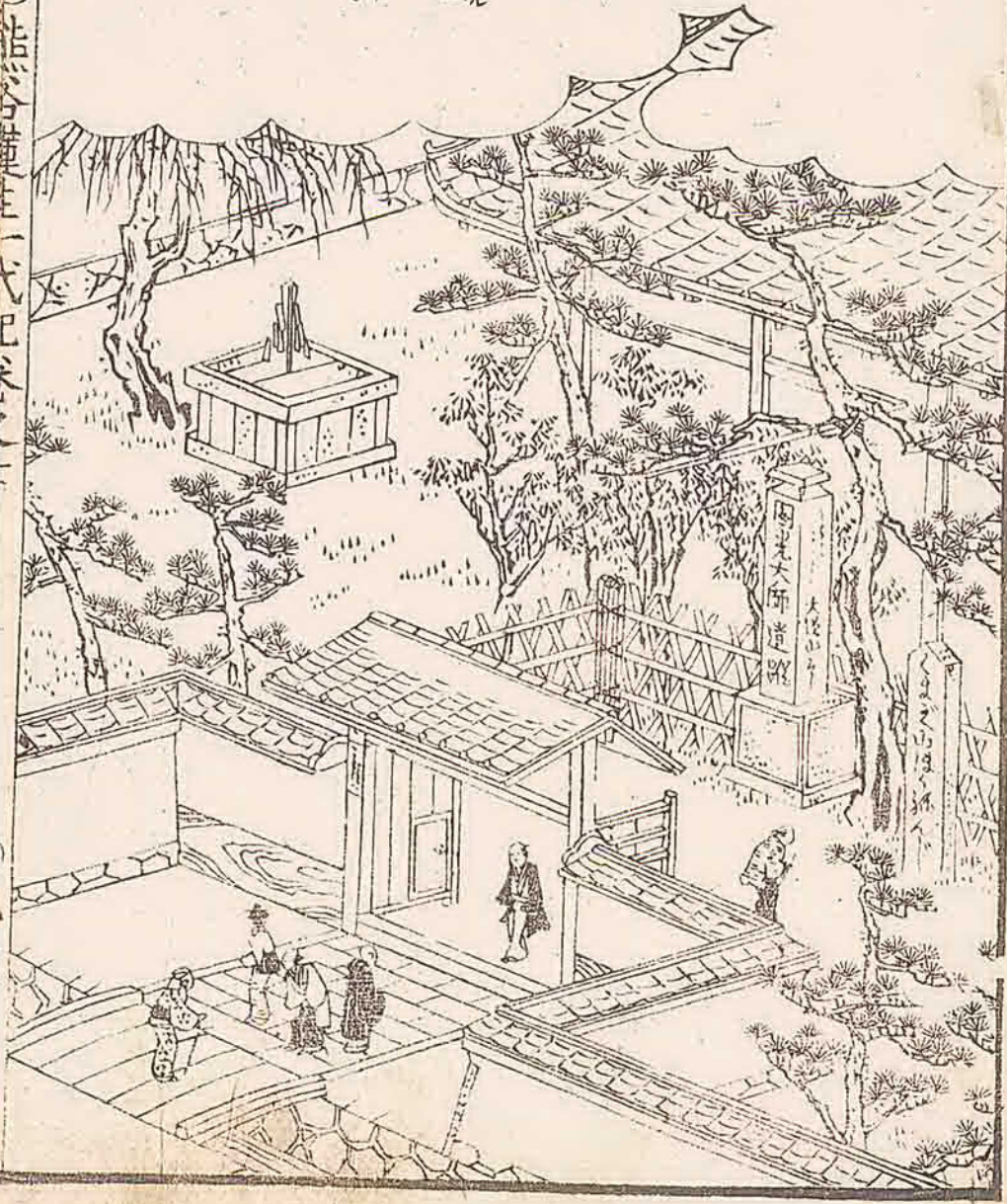
于時、元久元年五月十三日午の時、小僧の文をむすびて、蓮生
 いま、預をおこも。熊谷の入道六十七果ありて。系もぬくと上座
 と生の迎へ、曼陀羅の御前、とこれを書きとく。

法然上人、神感多れ事

并上人、蓮生小曼陀羅と送ふ事

蓮生、蓮生、の、事、を、て、法、然、上、人、蓮、生、房、が、上、座、上、生、の、分
 座、と、神、感、多、れ、の、け、入、り、年、月、の、ま、い、の、功、力、あ、り、て、
 既、上、座、上、生、と、違、へ、り、と、於、此、の、東、門、と、寄、り、親、善、執、事、と
 先、と、て、無、教、の、佛、善、薩、亦、違、ま、り、と、廿、五、の、善、薩、衆、
 衆、と、個、一、光、明、又、輝、き、蓮、生、房、が、衆、と、し、て、多、の、善、薩、衆、
 と、な、り、し、を、う、れ、れ、也、晚、合、衆、と、を、な、り、と、い、ふ、也、

東極
 慈光山
 法光寺
 の景



堀田陣山画

熊谷蓮生一八
 訓卷之七

とせむして。舞楽有けし。はるかに家の上はなまびた。死あり。美
 香麩て上つ。あは。大生生と。遠年。親世。善ハ。蓮生。法師と。蓮
 華。此上。よの也。養。法。方て。採。一。あ。と。清。愛。は。境。口。して。其
 ぶ。と。妻。く。上。人。御。兼。れ。終。ま。抱。と。し。是。に。華。さ。り。と。て。深。志。仏。と
 食。べ。く。べ。も。甚。生。法。師。の。許。へ。送。せ。む。い。た。ら。ば。慈。音。入。た。大。よ
 悦。び。其。後。ハ。他。事。を。忘。て。一。向。よ。志。仏。す。と。も。又。若。音。集。流
 業。其。外。を。必。通。必。或。ハ。同。切。の。例。は。甚。生。法。師。が。上。ぶ。生。生。の
 有。指。と。言。ふ。ん。ん。と。若。多。ふ。は。然。上。人。甚。生。法。師。ハ。凡。夫。の
 身。を。り。孫。又。仕。年。れ。若。う。り。人。は。務。れ。て。活。氣。重。徳。を。り。終
 終。の。性。ゆ。る。れ。は。さ。う。に。黠。く。奇。巧。と。若。多。う。な。後。は。け。入。た。さ。か
 と。ふ。別。獲。ち。る。せ。貨。を。し。ば。是。非。ハ。大。き。慢。の。ん。終。て。終。り。と

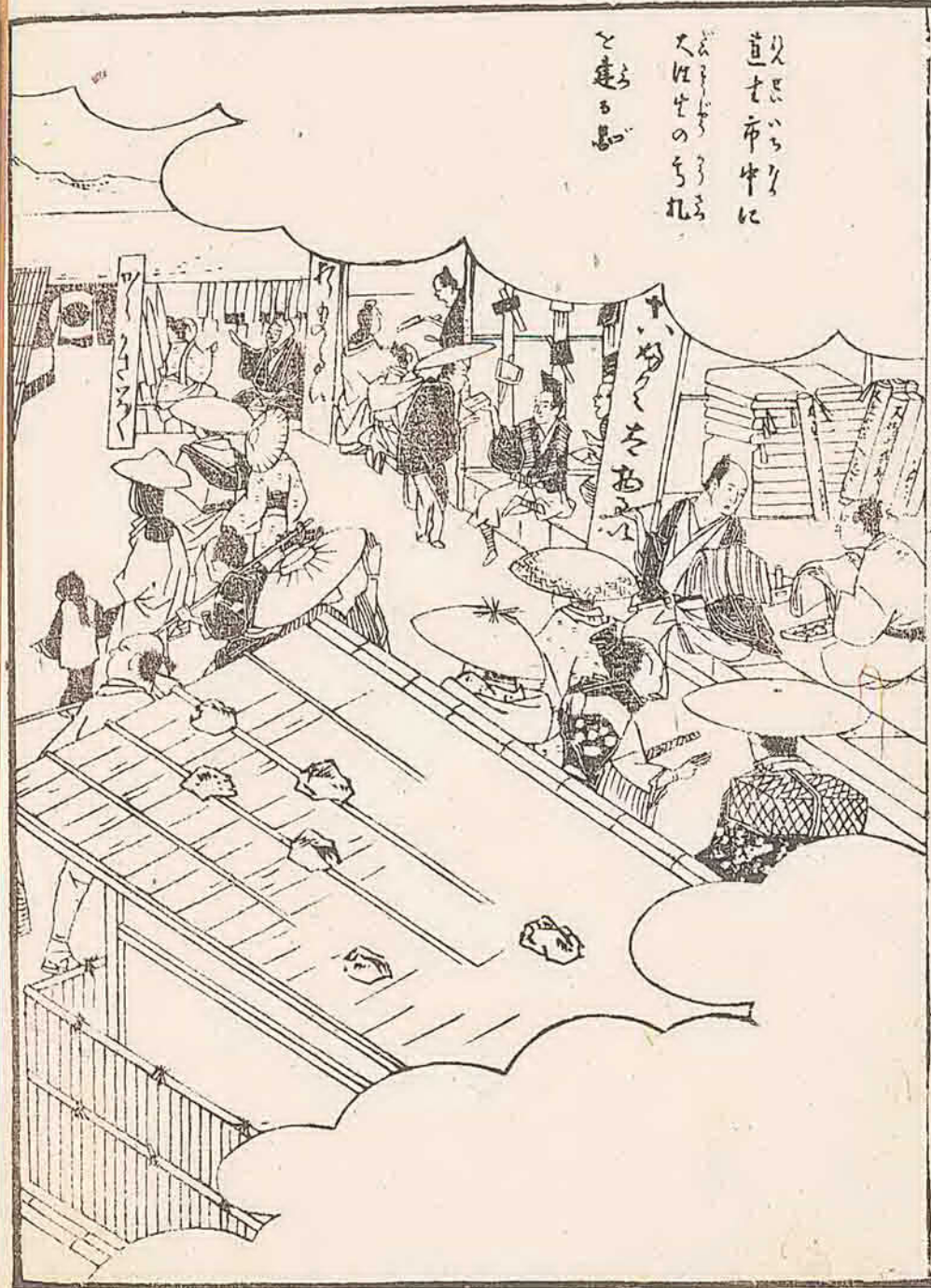
の四前よ控てのあひたる。師の四前。被よめて。只の朋。衆。親
 友。と。言。ふ。と。法。上。の。道。と。ん。よ。ま。な。こ。も。い。ま。ま。女。心。の。や。ら。ち
 知。え。さ。く。い。な。ま。ば。師。の。四。前。は。控。て。は。牙。子。中。あ。ら。ば。集。一。と
 信。り。而。近。の。席。と。か。て。終。の。正。お。ゆ。え。に。人。と。化。変。す。り
 後。も。成。り。ん。と。い。ふ。い。た。也。上。人。少。百。一。ち。も。た。ら。う。と。あ。ら。か
 然。も。又。甚。の。心。の。あ。ら。く。人。と。事。の。音。は。ゆ。と。あ。け。ら。う。と。作。有
 の。四。前。子。我。も。く。と。妻。り。な。ま。り。も。ふ。あ。よ。若。信。有。法。和。と。相。養。と
 と。人。と。ふ。向。あ。の。こ。ま。ま。指。と。ら。ハ。師。の。四。前。と。信。を。近。切。不
 近。の。あ。れ。と。か。ら。い。ま。若。う。方。と。あ。ら。ま。の。い。の。也。若。の。予。解。以
 才。い。づ。し。れ。な。ま。う。り。た。四。前。有。べ。い。若。傍。其。て。あ。性。向。と。相。い。と

子申いづれの尊よつとあふやと守り居るふ。上人に人の上
 なるつれあふも。初此尊ふありしんく業はお返しと我も
 くと心の席よまり。面目と名いぬしき作たり。抑信の
 のう解とらふは泥のかけに十八願の中より他力の徳を
 あつてん先信不道とふは才十八願のう解正定聚の權を
 してま実智土のは生とま。意無極のま作と收親とら
 ち。信いふは願の極するありて。信をこそけ信ひし
 こそ凡ま入報土の正定と定まふ。大經よ曰。信ん親長乃
 一長即得は生位不返不返轉し。又釈しは信佛の因
 縁とてして淨よま生せんといふ。佛力位持してま家小
 家の衆よひ。まちり。是別他力か取のゆよ叶が加佛克

慶後わん。は然上人先夫の言をよよくは後だ。其條とて使
 小也。よして。必云。奇端のゆきよ。けい。後。必。苦。ま。は。ゆ。を。用。る。
 べ。ま。と。上。人。より。法。方。け。い。の。人。へ。作。法。せ。ま。ひ。く。と。ち。り。有。
 あり。と。ま。よ。押。法。て。後。末。の。奇。端。とい。ふ。の。法。ま。よ。ま。の。ま。ま。り。
 辨。又。法。土。一。意。の。こ。し。若。守。大。師。家。大。師。親。長。を。人。ま。も。
 皆。ま。よ。り。て。ま。つ。と。建。立。を。し。ゆ。ま。ま。又。佛。の。ま。ま。り。ち。り。
 け。然。若。入。法。の。は。生。れ。あ。義。經。法。也。寫。法。う。ま。ま。又。教。ひ。ま。り。
 ま。か。あ。祖。師。上。人。も。然。よ。あり。記。は。遠。ま。ふ。は。た。ま。り。ま。れ。ご。
 け。然。と。人。の。所。殊。ち。く。ん。を。勿。然。若。入。法。の。慶。縁。の。權。ま。ま。り。
 め。ま。ま。り。れ。う。ま。の。上。人。の。殊。れ。ゆ。ま。ま。感。ず。る。ふ。あ。ま。り。ゆ。ま。

徳谷直義父入道と古師の遺事

以思はらけ
直七市々に
大はせのちれ
と建る品



并三法然上人道安が孝人と讃ある事

元久二年四月。小治郎直家上洛して。父蓮生が墓所を
まもり申ける。いふは。早父上りも。神老神の幸あれは。何ぞ申せ
お。神生は。生れ期を見せけり。せんため。昨年の暮より。数夜
書状より。申して。清むうひの泉末を。登せしども。父より。都
へ。移せよ。よ。まきの。旨。信。越されけり。此度の。直家。直は。清
孫より。いと。是。如く。下。向。あり。て。申。ふ。て。修。せ。よ。母。も。是
の。事。を。歎。き。や。され。いと。信。を。つ。う。て。清。む。と。た。入。道。氣。を。致。す
直世の。身。は。いつ。て。お。修。る。も。何。ぞ。心。を。痛。め。ん。や。海。に。入。り。
懸。き。ハ。系。未。方。る。繩。の。ぐ。ぐ。縛。て。生。死。を。出。る。と。疑。し。と。こ。
都。へ。と。命。給。ふ。ん。い。ろ。か。如。坐。あり。今。う。そ。い。右。郷。の。妻。執。り。も。

たり。母ハ汝が孝妻をそせむ竹の玉之りわらんたを念佛の
事と相續して達せし極樂とてかあらず事の達せしと
ゆ。く。し。う。す。べ。我ハ今。く。申。ふ。の。う。と。み。多。き。處。を。て
養生を待たり。そ。父。は。得。心。せ。し。を。直。家。も。今。ハ。是。非。を
わ。り。て。入。道。願。も。却。て。達。せ。し。似。たり。そ。か。ん。を。な。ら。て。
そ。れ。より。よ。人。の。信。を。申。ふ。い。て。は。い。ひ。父。入。道。の。ゆ。ひ。の。お
と。信。を。申。ふ。と。妻。細。中。の。わ。げ。て。父。子。父。の。命。も。い。く。り。を。し。
か。く。申。ふ。を。何。と。我。申。ふ。い。て。修。り。を。見。ぬ。ん。と。執。心。の
修。り。か。る。又。の。入。道。を。母。へ。孝。心。を。申。ふ。と。申。ふ。の。事。は。修。行。成
ん。と。い。ひ。ま。う。の。父。又。の。信。を。申。ふ。後。多。く。い。部。は。あり。て。在。る。乃。日
と。く。り。お。書。け。孝。乃。と。圖。を。隔。て。と。申。ふ。小。似。たり。様。は。

父の道小智く考たり。此上都と令終あり。父の義終と
 又へと猶くかべし。それごとく君は仕て身終ふはまらば
 されど父の義終の御りすれども。馳登るべき是快あり。
 此中委細よりせむも又得んや。經て孫は是に却て
 氣を換らるれども。後より上人乃所一言を添はれて
 師必はさるべき能。任命ありて遠背あり。跡より上り
 御義誠と慕りて後とりく師必の間念佛と勤らるるに。
 近隣の朋友より被官に氏よりむすも念佛志とて留せ
 是是よつとも所必して養生を遂げしを。遠鄙乃
 人の信心のたよりもなきん。都より智識上人を叫り
 きて。漸教化せしむ。佛人の信心も日よふ増はりん。をを

あてハ父入道ののぞかれ勤めありて。信心を發するたぐひ
 或ハ信トあつてハ不信心疑ひいさぐせせざる者あり下。
 可ふたれども。殘命の回ハ人をも勤めて念佛と勤は。
 自身ハ勤候をもとげし人をも。且ハ上人へ所執忍せ
 ちりやぐと。誠とてしりしむ。上人真教がよめ玉孝を
 懇トあつてハ。信疑事交の人たれありもとる一語も
 入らば。其の屬すも念佛の心より自他をあらひ入たる
 こと。歸ふし人をするめて志仏門より引入せられよ一人志
 佛門よ入る。一佛を遠道の功德より廣き方なり。すめて
 志仏に歸るべき人の機とす。千里ともなきしを。耶

佛ハたと大ニ世界火煙にほらもあふ其火中を通りて
ても佛名とそけいこそあつめさる。ゆへ佛名を人の動むこと
又もひて大善根なり。ゆへて上品上生れ極楽とそを來極園
して人を助んとす事也。當來ハ極楽なり。そへハ幸ふ者縁の
者を引寄して一蓮託生の事とそを遂んと頼ふこと也。ゆへに
きふなり。互ひお傳令あらず。あつらふと通せんこと。面談ふ
等。今ハあつらふことまごぬ浮世の夢なり。今生れめんたん
今も限まり。極樂の再会をなふ事也。蓮生世のこころを
殘情と果さんと作らる事也。蓮生一言の子細もなす。即
ごふにいふまやるといふ事とそなり。

蓮生村居の市小高札をさる事

并ニ憐直家乃一孫(建書)の事

おも入道啼玉の後ハ又々法人を化守し其傳ハ終つて人念
の白紙をさふせり。ゆへに建永元年ハ八月ハ一孫を築め。秋
明年ハ二月ハ八月ハ大生生とそなり。ゆへに建永元年
人ハ来りて生させね子とそなり。ゆへに建永元年ハ八月ハ
村居市小札をさる事也。おと年ハ建永元年ハ八月ハ
の事なむけし。我子小治郎建永元年ハ八月ハ建永元年
秋秋縁者も死後の事も頼おき。ゆへに建永元年ハ八月ハ
跡と其文よ曰

至子そ縁後、可令存知旨

一 先祖相傳所領安堵之御判七并保元年中以來至建永

年中軍忠御状二十一通有之

一 對三皇不可成道後并武道可守之事

一 上人御筆所書并迎接曼陀羅可成信心事

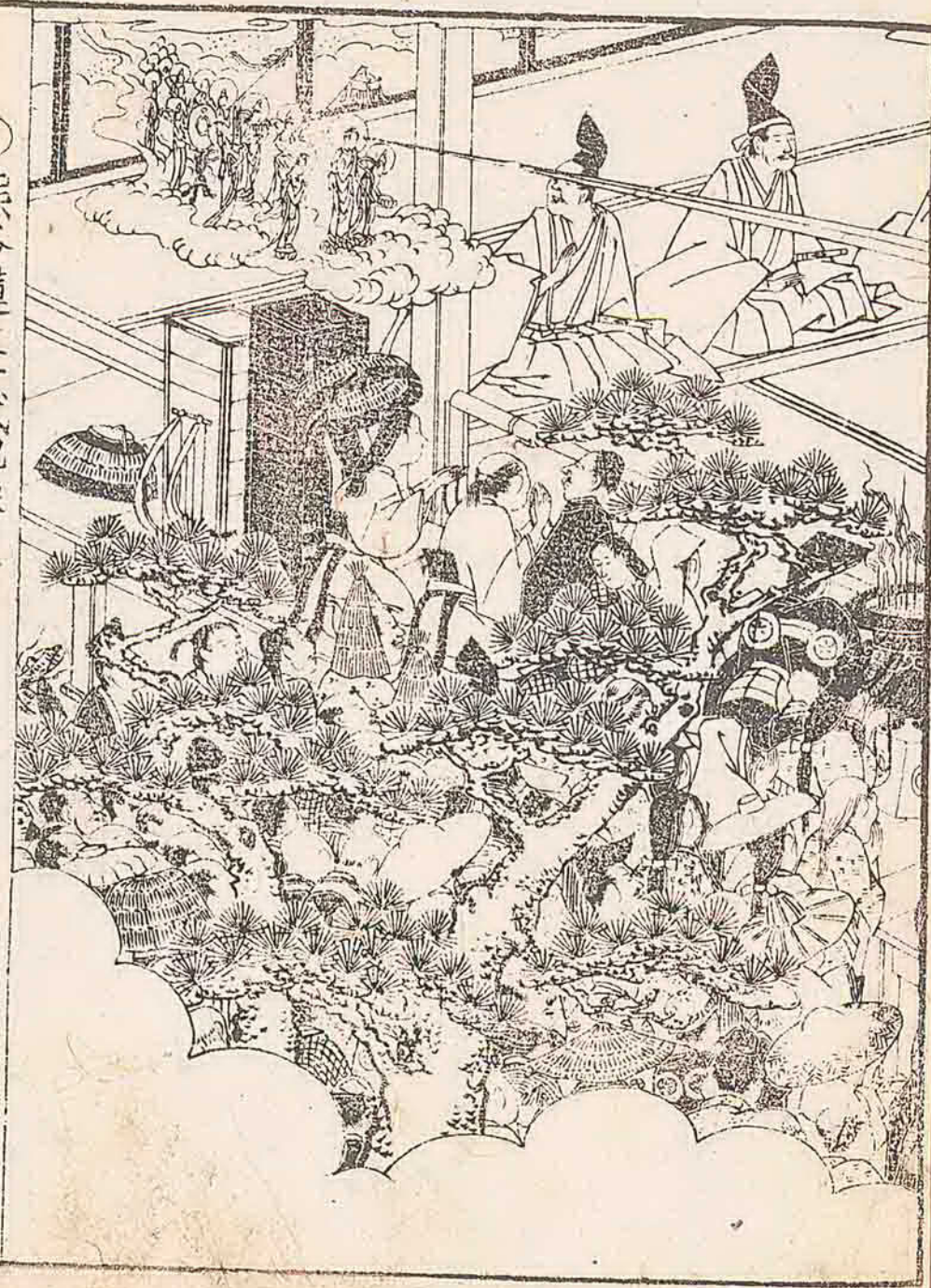
右三箇條の外依其身器可覚悟者也仍置状如件

蓮生在判

美元元年正月

初も二月八日ふちりけとぞ。高札の趣きとて國の繁道依男女蓮
せ妨れ蓮生とて念佛の功德をたれとべし。我もくと慈香
が寓所は解集する若歳五方とふ其教を志し蓮生坊ハ表明
に沐浴して身と信り。礼盤ふのやりて。念佛數百遍と唱る。後人も
同善ふと念仏をさち人。蓮生今や目とすましとてり人。後たるふり

蓮生あつくりありて念佛とぞめ。眼を冴きて後人むつひ
々ハ今日れは生、延引とべし。佛の所告ちり來九月四日
ふかすほどなきと遂べし。若其日來陰あざとらひて。礼盤
より下るあぞ。解集れまう。無とさる。念仏の功德もさるや
あれさる。ちんぞや同し人回を死する日と知る。ばきまう。方。ば
てや今年のことと去年よりも。れとましと滅とけり。ありし
我もが。然りたりと。蓮生と朝等の。しと。若もて。候りし。う。ば
慈香が一族良等とて。守て。如かき。蓮生とあひり。う。ま。う。と
と。結む。ひ。ひ。心。辱。を。ほ。ら。う。け。の。ら。か。ま。し。う。小。對。して。面。目。を。さ。り
政。方。り。と。歎。き。悲。し。も。け。且。だ。入。道。夢。中。て。我。既。亦。入。滅。と。せ。し。あ。ふ
孫。陀。如。來。告。む。り。く。ハ。來。九。月。四。日。ま。を。は。生。と。待。べ。し。と。こ。し。れ。ば



蓮生法師
上人の遺生
の事

蓮生法師の遺生
の事

のこころいふあらず。まゝにせし備人いふやど小聚ふらもあらずも
答へくまきや何ぞ俗人れあまらにわらず。来九月に日ふの
日。生と通ふ。その朝ハ清べきなり。わあらずんよわくも
事なれと。せしもなせ。それよりまゝ所くと近所り。ま
とす。免多き。な。な。の。ま。ま。て。法。人。信。仰。せ。も。免。損。の。内。坊。と
そ。指。さ。て。後。い。く。蓮。生。坊。ハ。耳。も。う。け。を。居。ら。る。る。

蓮生再喜れと立大生生の事

并上品生奇撰の事

抑日本市の始りハ大和國辰の市を初とせん。そのら法
にともする。此村忌市といふハ武生郡玉崎玉郡よあり。徳谷乃
郷ハ崎玉大里ハ西郡小崎也。徳谷玉崎玉郡よあり。徳谷乃

申れにわたりて。り。後。事。里。を。り。じ。う。ハ。張。り。き。市。を。

ア。一。年。う。つ。り。て。今。ハ。形。を。り。小。邑。あり。それ。わ。か。る。法。の。

高。北。き。心。也。中。度。の。ぐ。く。法。人。あり。ま。り。も。理。り。と。ま。ん。後。

う。り。や。す。く。ま。ま。も。す。だ。て。九。月。に。日。を。付。く。心。だ。ま。ま。く。

ま。れ。と。ま。て。初。を。日。一。い。ふ。く。九。月。に。日。を。生。を。送。る。なり。

い。づ。れ。も。ま。り。て。之。の。疑。ひ。と。情。さ。ま。ま。と。い。ひ。送。り。と。一。張。紙。送。り。

ま。ぐ。小。止。也。万。一。此。ま。び。相。違。候。を。も。初。身。上。海。と。な。り。ん。

月。結。ち。さ。り。事。ハ。か。き。ら。び。内。用。なり。と。い。ひ。め。ら。れ。も。蓮。生。

ま。ま。て。汝。等。佛。の。法。を。ま。ま。と。ま。り。止。り。り。た。り。あ。ん。ん。

此。ま。び。の。生。と。結。ぶ。ん。だ。既。に。先。達。て。約。束。せ。し。と。候。り。と。

あ。ん。ん。表。いつ。り。者。なり。とい。ひ。れ。り。也。大。切。の。念。仏。を。候。を。

つくべし。さすれば今我大生を遂とて法人の心をせむ。尊
 修念佛門に入る事多うお下。是別りかぶる事なり。其用
 意とてうなる事。親族の輩よりきりとあつども。今の止むこと
 あつども。その後してありたる。蓮生を正月の事といふうかむ
 事ありけるが。九月初日堂よ音楽をて後いふお養念と
 たり。身安樂なり。叔をふたり一づ。先達て集る共けり
 色とて欺くたりん。きりかきりまづりてんよ。大勢の朝
 一の解業とるる。春なりも信して感するも市れおし。
 蓮生坊主人のて。未明ふ体法して修修の用とてなり。上人
 孫陀多迎の三尊化佛菩薩の形像と一補ふ事終せし。
 秘蔵しむひたる。蓮生坊なる以系於より武州へありける

とた。上人よりおりたる。此の上人たるはまん中がうけり。その
 と。元久二年蓮生坊武州へを移す。上人より蓮生をたす。其
 の能能秘蔵の樹の相とて。上人より蓮生をたす。其
 樹とて。其の樹ありたる。上人より蓮生をたす。其
 と。まゝ。そのまゝ。樹ありたる。上人より蓮生をたす。其
 と。けり。これ。蓮生坊の。上人より蓮生をたす。其
 を。て。人。より。蓮生。坊。なる。以。系。於。より。武。州。へ。あり。ける
 音。四。方。小。業。也。これ。が。蓮。生。の。其。事。あり。て。解。業
 の。道。信。も。つ。皆。仰。れ。ぬ。す。法。已。の。刻。お。け。り。蓮
 生。師。を。佛。と。ん。ま。唱。へ。お。ま。る。その。時。に。う。り。光。り。を
 秘。して。大。生。と。ま。り。て。なり。仍。年。七。十。五。業。を。た。す。解。業
 の。こ。も。が。一。つ。く。満。善。薩。を。ま。り。て。あ。り。あ。り。を。た。す
 たり。非。待。せ。し。案。五。神。を。投。て。慈。深。と。り。て。ま。り。て。なり

九想詩繪抄

ひろかき 全部四冊

唐土の東坡居士の
九想詩と多く必字
しく短く老翁男女
に安んずる書なり
新板出来

右の書は板か来仕はおりろをかきやなれとてあつて

大坂心齋橋通南又太郎町

大野木市五郎

京都衣棚通二條下ル町

細野四郎治

發行

江戸日本橋南堂丁目

須原屋茂兵衛

同 浅草茅町二丁目

同 伊八

同 日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

同 芝神明前

岡田屋嘉七

同 兩國横山町三丁目

和泉屋金右衛門

同 芝神明前

内野屋彌平治

同 日本橋通二丁目

須原屋新兵衛

同 室町二丁目

大坂屋藤助

京都三條通御幸町角

吉野屋仁兵衛

尾州名古屋本町通

永樂屋東四郎

大阪心齋橋通安七町

河内屋和助板

書肆

